

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

2015/2016 Annual Cruise Report of the T/V
Shioji-maru Voyage : Fiscal Year 2015 Cruise
Report

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1401

1. 平成 27 年度（2015 年度）航海報告（Fiscal Year 2015 Cruise Report）

1.1 概要（Annual Cruise Summary）

練習船汐路丸は、東京港を母港とし東京湾、館山湾及びその周辺海域において実習航海及び実験航海等を行っている。

平成 27 年度（2015 年度）は、新入生オリエンテーション航海、実習航海、演習航海、実験航海、体験航海、共同利用航海、研修航海、入渠工事航海などで、延べ 117 日、4,273 海里航走した。

新 1 年生を対象としたオリエンテーション航海は入学式後である平成 27 年 4 月 8 日午前
に海事システム工学科、4 月 9 日午前に流通情報工学科、同日午後に海洋電子機械工学科が
乗船し、東京港見学及び船内見学を行った。海事システム工学科では新 3 年生も数名乗船
させてオリエンテーションの運営とリーダーシップ習得の一助とした。

実習航海は、海事システム工学科航海システムコース 3 年生、海事システム工学科情報
システムコース 3 年生、海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生、海洋電子機
械工学科制御システム工学コース 3 年生及び流通情報工学科 3 年生が乗船した。

海事システム工学科航海システムコース 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前
期は平成 27 年 5 月 12 日から 5 月 21 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を
行った。この実習は、船舶運航の基礎、揚投錨操船、気象観測に関する知識を学ぶことを
目的とした。



Fig.1.1 消火訓練実習



Fig.1.2 船橋航海当直実習

後期は平成 27 年 10 月 6 日から 10 月 23 日の間、前期同様 2 組に分かれて、それぞれ 4
日間の実習を行い、前期の実習項目の習熟と、海事英語の習得を目的とした。

海事システム工学科情報システムコース 3 年生は前期と後期の実習航海を行った。前期
は平成 27 年 6 月 9 日から 6 月 18 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行っ

た。この実習は、実船での操舵、運航を実施することで実船の挙動について確認すること、各種情報の必要性、取扱い方法を学ぶことを目的とした。

後期は平成 27 年 11 月 24 日から 12 月 3 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行い、自動制御実験及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的とした。

海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生は、平成 27 年 5 月 26 日から 6 月 4 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、推進・機関性能に関する実験、機関及び航海の実務に関する実習などを行い、総合的に船舶運航の特性を習得することを目的とした。

海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生は、平成 27 年 11 月 10 日から 11 月 19 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、Z 操縦試験、機関特性実験、機関当直及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的とした。

流通情報工学科 3 年生は、平成 27 年 4 月 14 日から 4 月 23 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、船舶及び海上輸送の特徴と船舶運航の基礎を学ぶことを目的とした。

演習航海は、海事システム工学科航海システムコース 3 年生及び海事システム工学科情報システムコース 3 年生が 10 月末から 1 月下旬の間、各コース 2 組に分かれて、それぞれ 4 回、東京湾にて操縦性能測定、自動制御等の演習を行った。

上記実習航海及び演習航海には、担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

実験航海は、東京湾、館山湾及びその周辺海域において、それぞれ 2 日間ないし 3 日間の航海を合計 9 回行った。共同研究者として外部からは名古屋工業大学、海上技術安全研究所はじめ、船用機器メーカーの職員らが乗船し、研究機材を用いてデータの収集を行った。各回とも限られた実験時間を有効に利用できるよう乗船者応募の時から要望を考慮し、過密になりすぎないスケジュールを努め、気象、海象を考慮して、当日、ベストな実験ができるように環境を整えた。

公開講座は、平成 27 年 7 月 11 日に、公開講座修了者を対象として実施した。東京港から東京湾北部を時計回りに回りながら浦安沖、千葉港、東京湾アクアラインを見学し、横浜港内では 1 時間程度各岸壁を見学する時間を取り、その後川崎港、羽田空港沖を經由する東京湾見学航海を行った。

7 月 20 日は 20 回目の海の日であることを記念して海の日体験航海を実施した。今まで実施したことのない客船への資格変更を行い、中高生とその父兄を乗船させて、午前と午後の 2 回、東京港内と船内を見学できるように航行した。また、本学学生を 10 名乗船させ

て細かな説明をしつつリクエストに応え、かつ、乗船者の安全確保に努めた。

共同利用航海は、横浜国立大学、日本大学、芝浦工業大学の3大学、合計12日間の航海を行なった。航海には、それぞれの大学から担当教員、TA及び本学の担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

研修航海は、平成27年4月17日に株式会社商船三井の新入社員を対象とした乗船研修を、平成27年9月25日に一般社団法人日本舶用工業会加盟各社社員の乗船研修を行った。東京港から東京湾北部を航行しながらそれぞれの研修テーマに沿った内容を展開し、船内見学や総員退船部署操練、航海当直を体験し、船舶運航や搭載機器に関する知見を広めた。

国際海事訓練セミナー航海は、平成27年9月15日から9月17日の間、海事システム工学科航海システムコース4年生とベトナム海事大学の教職員が乗船し、揚投錨操船等を通して、船舶運航に必要な海事英語を学ぶことを目的として有意義な実習を行った。

入渠工事航海は、平成27年8月31日から9月11日の間、新潟造船株式会社三崎工場に回航して修繕工事等を行った。

回航に併せてISO乗船研修を実施し、往航は5名、復航は3名の本学事務職員が乗船し、船舶運航についての知識を深めた。



Fig.1.3 帆走実習支援中の汐路丸



Fig.1.4 実験航海での船橋

1.2 汐路丸要目表 (Ship Specifications)

Name of Ship: Shioji maru
Type: Training Ship, Motor Ship
Owner: Tokyo University of Marine Science and Technology
User: Tokyo University of Marine Science and Technology
4-5-7 Konan, Minato-Ku, Tokyo, JAPAN
Port Registry: Tokyo
Call sign: JG4644
Name of Master: Hideyuki KASHIMA
Dimension: Length Overall 49.93 meters Breadth 10.00 meters
Length (P.P.) 46.00 meters Depth 3.80 meters
Gross Tonnage: 425 tons
Main Engine: 4-stroke Diesel Engine 1,400ps × 1, Single Screw (C.P.P.)
Cruising Speed: 14.12 knot
Complement: Officer 6 persons, Crew 6 persons, Instructor 6persons,
Cadet 44 persons,
Total 62 persons
Navigational Equipments:
GPS navigation system, Radar with ARPA, Doppler sonar, E.M.log,
Echo sounder, AIS, ECDIS, Yaw-rate indicator, INT-NAV system,
Maritime Broadband Communication System etc.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.